

[03_02]九州大学大型計算機センター広報 : 3(2)

<https://doi.org/10.15017/1467967>

出版情報 : 九州大学大型計算機センター広報. 3 (2), pp.1-35, 1970-05-07. 九州大学大型計算機センター
バージョン :
権利関係 :

九州大学大型計算機センターの開所に当って

九州大学大型計算機センター長 大野克郎

一昨昭和43年6月2日の米軍機墜落事故以来、九州大学大型計算機センターの建物は、永らく工事が中断されていたが、昨年12月25日に工事が再開され、去る3月末日をもって一応完成した。すでに計算機は、仮設場所の九州電力株式会社旧総合研究所から移設され、来る5月8日にはセンターの開所式を迎える運びであって、現在すでに新しい建物において利用者の計算依頼が受け付けられ、計算業務が順調に行なわれている。学内外の心ある方々からこれまでに賜った暖いご支援に対して心から謝意を表す。同時にセンターとしての今後の責務を痛感するものである。

思えば誠に永い苦しい、そして理解しがたいことの多い二年間であった。センターの再建問題のみが原因でないとは言え、多くの人々が時間と労力を奪われ、身心を害い、生活を狂わせられた。取返しのつかない悼ましいことさえ起こった。センター職員が異常な手段に訴えることを決意したときもあった。署名が集められ、募金が行なわれた。異例の事態を処理するため、学外の方々も辛苦され、甚大な犠牲を払われた。様々なことがあって、二年を経過し立派にでき上がった建物には多くの人々の色々の思いがこめられている。センターとしても何か具体的な形で記憶をとどめるようにしなければならないと考えている。

約一カ年にわたる仮設期間中は利用者にご多大のご不便をおかけしたし、移転後も種々の行違いでつまらない手ばかりが多かった。センターが利用者の寛大さに支えられてきたことを特に感謝したい。しかしセンター職員も、突貫作業をしばしば余儀なくされるような変則的勤務に堪え、心をあわせて精一杯の努力をしたと思う。場違いではあるが、ここでセンター職員の労を犒うことを許されたい。今後センターとしては、建物内を整備し、業務態勢を確立し、さらにTSSの開始その他に備えて、システムの変更、改善等の仕事を本格的にはじめなければならない。センター職員一同決意を新たにして、真に研究者のお役に立つセンターを実現するよう努力を続ける覚悟であるので、今後ともセンター育成のためのご支援を賜るように切にお願い申し上げる。